

線を
引かざる
日なし

— 鳥取ゆかりの美術家による素描 —

Nulla dies sine linea



浜田宣伴<「休憩どき」の下絵>紙・木炭・クレヨン、1943年頃、当館蔵

2021 11.27 SAT — 2022 1.10 MON



鳥取県立博物館

TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM

〒680-0011 鳥取県鳥取市東町2丁目124 TEL.0857-26-8042 FAX.0857-26-8041
<https://www.pref.tottori.lg.jp/museum/> E-mail hakubutsukan@pref.tottori.lg.jp

線を引かざる日なし

—鳥取ゆかりの美術家による素描—

アレクサンドロス大王に仕えた古代ギリシアの画家アペレスは、顔貌を生き写しに描くほどの技量の確かさゆえ、後にも先にも彼を凌ぐ者はないと讃えられたことが知られます。「線を引かざる日なし [Nulla dies sine linea]」とは、そのアペレスが日々欠かさず素描の鍛錬に励んでいたことから生まれた諺です。

絵画や彫刻、建築といったあらゆる造形の基礎となる素描には、作品の制作過程を段階的に示すものや、必ずしも作品化することを意図しないスケッチ等、目的に応じて様々なタイプが含まれています。アペレスが描画の重要性に意識的であったことに始まり、西洋では16世紀になると素描が諸芸術の根幹をなすものとみなされ、理論、実作ともに黄金期を迎えてその地位を高めました。しかしながら現在では、作品の制作背景や作家の興味関心を裏付けるための資料的な価値の方に比重が置かれています。

本展覧会では、当館のコレクションを基軸としてつづ県内の各所に所蔵される素描を交えながら、近代以降に活動した郷土ゆかりの洋画家や彫刻家らが制作の過程や記録的な意味合いとして紙の上に残した多岐にわたる手の痕跡を紹介し、あらためて素描そのものの魅力に迫ります。

Nulla dies sine linea



1



2



3

会場：鳥取県立博物館 第3特別展示室
 会期：2021年11月27日(土)～2022年1月10日(月・祝)
 休館日：会期中の月曜日(2022年1月10日は開館)
 2021年12月29日～2022年1月3日
 開館時間：午前9時～午後5時(入館は閉館の30分前まで)
 観覧料：一般180円、20名様以上の団体150円。

次の方々は無料＝大学生以下、学校教育活動の引率者、70歳以上、障がいのある方、難病患者の方、要介護者等及びその介護者、当館で当日開催中の企画展のチケットをお持ちの方(来館当日のみ)。

1 安岡信義《人物》紙・木炭、制作年不明、当館蔵 | 2 前田寛治《ものを喰う男》紙・鉛筆・コンテ、1924年頃、当館蔵 | 3 恩田孝徳《日本橋通り三丁目より京橋を望む》紙・水彩、1945年、当館蔵 | 4 木山義喬《うすくまる男》紙・木炭、制作年不明、米子市美術館蔵 | 5 中井金三《ベルヴェデーレのトルソ》紙・鉛筆、制作年不明、倉吉博物館寄託 | 6 辻智堂《空言》紙・インク・墨、1958年、当館蔵



4

交通のご案内

◎JR鳥取駅からバスで

- a. 100円バス「くる梨(緑コース)」で「①仁風閣・県立博物館前」下車すぐ
- b. ループ麒麟獅子(土・日・祝日のみ)で「③鳥取城跡」下車すぐ
- c. 砂丘・湖山、賀露方面行「西町」下車約400m
- d. 市内回り岩倉、中河原方面行「わらべ館前」下車約600m

◎JR鳥取駅からタクシーで約10分

◎鳥取空港から鳥取駅行連絡バスで「西町」下車約400m

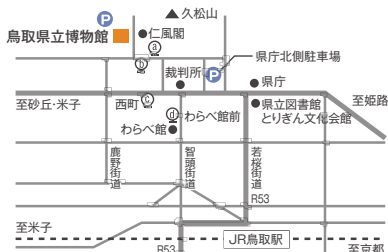
◎鳥取自動車道・鳥取ICよりお車で約15分

当館駐車場40台駐車可能 なるべく公共交通機関をご利用ください

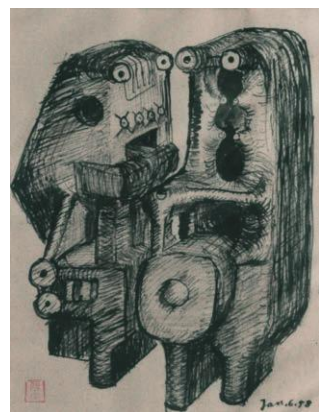
鳥取県立博物館

TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM
 〒680-0011 鳥取県鳥取市東町2丁目124
 TEL.0857-26-8042 FAX.0857-26-8041
<https://www.pref.tottori.lg.jp/museum/>
 E-mail hakubutsukan@pref.tottori.lg.jp

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本展の会期や内容に変更が生じる可能性があります。最新情報は鳥取県立博物館ホームページにてご確認ください。



5



6